

■8月2日

仁川空港、7月、出入国数、前年同月比5%増

韓国法務部の仁川空港出入国管理事務所は1日、7月の1カ月間に同空港から出入国した人の数は前年同月比5%増の331万7306人だったと発表した。2001年3月の開港以来、月間で過去最高の出入国者数を記録した。

出入国者のうち、韓国人は前年同期比7%増の107万9703人、一方、8国者の増加は同2%にとどまった。

(YONHAPNEWS)8/1

sarangni@yna.co.kr (-> <mailto:sarangni@yna.co.kr>)

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/society/2013/08/01/0800000000AJP20130801003000882.HTML> (->

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/society/2013/08/01/0800000000AJP20130801003000882.HTML>)

ガルーダ・インドネシア航空、関空—ジャカルタ線、11月8日就航

ガルーダ・インドネシア航空は2日、今年4月に運航再開を発表していた関空—ジャカルタ線を11月8日に週4便で就航することを発表した。

使用機材はエアバスA330-200型機(ビジネス36席、エコノミー186席)で、週4便での運航となる。

同便の就航により、日本とインドネシアを結ぶ路線はこれまでの週28便から週32便となる。

(トラベルビジョン)8/2

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58469> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58469>)

(ガルーダ航空 プレスリリース)8/2

<http://media.yucasee.jp/r/detail/209288> (-> <http://media.yucasee.jp/r/detail/209288>)

スカイマーク、第1四半期業績、営業損益25億の赤字転落

スカイマークは31日、2014年3月期・第1四半期業績を発表した。これによると、売上高は184億7,800万円(前年同期比3.5%減)と減収になったほか、営業損益は24億7,700万円の赤字(前年同期は5,600万円の黒字)に転落した。

経常損益は12億0,300万円の赤字(同8億9,600万円の赤字)、四半期純損益は12億4,100万円の赤字(同四半期純損益は10億5,000万円の赤字)にそれぞれ赤字幅が拡大した。

同社は、経営環境について「LCC各社の急速な路線拡大により航空マーケットの一部は提供座席の供給過多となり、特定の路線で旅客獲得競争が一層激化した」と分析した。

一方、通期業績予想は売上951億円、営業利益58億円、経常利益60億円、当期純利益33億円を据え置いている。

(日刊航空)8/2

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0802-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0802-02.pdf>)

(スカイマーク)7/31

http://www.skymark.jp/ja/company/investor/130731_ir.pdf (-> http://www.skymark.jp/ja/company/investor/130731_ir.pdf)

スターフライヤー、第1四半期業績、営業赤字11億へ拡大

スターフライヤーは31日、2014年3月期第1四半期決算を発表した。これによると、売上高は71億3,500万円(前年同期比20.9%増)、営業損失11億3,100万円(前年同期は1億3,300万円の赤字)、経常損失10億5,200万円(同1億7,000万円の赤字)、四半期純損失10億5,400万円(同1億7,300万円の赤字)を計上した。

10月から予定する福岡～関空線就航に向けた機材費などの増加や円安に伴う費用増によって、営業費用は前年比37%増加したことから、営業赤字が拡大した。

一方、通期業績は売上344億円、営業利益1億9,000万円、経常利益4億3,000万円、当期純利益5億1,000万円の予想を据え置いた。

(日刊航空)8/2

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(スターフライヤー)7/31

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/20130730003657.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/20130730003657.pdf>)

ブリティッシュ・エアウエイズ、羽田—ロンドン線、累計乗客数15万人突破

ブリティッシュ・エアウエイズは8月1日、羽田～ロンドン線の累計乗客数が15万人を突破したと発表した。同路線は2011年2月20日に就航、B777-200型機によって週5便を運航している。

同路線は、羽田空港における深夜早朝時間帯発着枠を活用しているが、来年春からは昼間時間帯でも運航が可能となる。同社によると、現時のところ成田空港と羽田空港の両空港からのロンドン線を維持する方針だが、羽田空港の便数・ダイヤ設定については検討中。

(日刊航空)8/2

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0802-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0802-03.pdf>)

香港、航空券へ燃料税など表記義務づけ

改正商品説明条例が7月に施行されたことに伴い、航空運賃を広告宣伝する際に、燃油サーチャージ(燃油特別付加運賃)や税金など「隠れコスト」を表示することが航空会社に義務付けられた。7月31日付サウスチャイナ・モーニングポストが伝えた。

NNA ASIAによると、これを受け、ヴァージンアトランティック航空は、新商品の広告で免責事項に税金と燃油サーチャージの料金を明記。キャセイパシフィック航空の広告は、以前はこれらが別途適用されるとの文言のみだったが、現在はおおよその料金を明示しているという。また、カンタス航空のウィン・リー香港部門ゼネラルマネジャーは、バナー広告にも全ての料金を包括した価格を表示する方針を示した。

(NNA ASIA)8/1

<http://news.nna.jp/free/news/20130801hkd009A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130801hkd009A.html>)

ベトナム航空局、2013年上半期、旅客輸送量、前年同期比15.8%増

(vietjoによると)

航空市場が急速に回復している。ベトナム航空局によると、2013年上半期の航空旅客数は前年同期比+15.8%増の1450万人、航空貨物輸送量は同+22%増の30万tに達した。このうち国内線旅客数は同+17.6%増の710万人に上る。29日付ベトストックが報じた。

市場回復の主な要因は、航空会社各社の路線網の拡大と増便にある。ベトナム航空(VNA)は上半期に、南中部カイホア省ニャチャン市とロシア、中部ダナン市と韓国の間で国際線を就航させた。

VNAはまた、定期的に行っているキャンペーンの他にも、閑散期の値引き、市場毎や路線毎のきめ細かいサービスなど様々な販促活動を展開している。こうした活動の効果で、VNAの上半期の売上高は前年同期比約+10%増の約25兆ドン(約1160億円)、旅客数は同+6.4%増の728万人、平均座席利用率は同+3.3ポイント増の78.3%に達した。

サービスの質については、航空局は全体的に改善がみられると評価しているものの、搭乗客からは遅延や欠航、客室乗務員の態度など航空会社に対する批判の声が上がっている。ただ、これには航空会社の責任とは言えないことへの批判も含まれており、やや気の毒な面もある。

(vietjo)8/2

<http://www.viet-jo.com/news/economy/130730092746.html> (-> <http://www.viet-jo.com/news/economy/130730092746.html>)